



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Synthetic Studies on the BCD-Ring of Armatol F [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	田中, 啓太
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(理学)
Dissertation Number	甲第11146号
Issue Date	2013-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53920
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Keita_Tanaka_review.pdf, 審査の要旨



学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博士（理学） 氏名 田中 啓太

	主査	教授	谷野 主持
	副査	教授	鈴木 孝紀
審査担当者	副査	教授	及川 英秋
	副査	教授	伊藤 肇
	副査	准教授	藤原 憲秀

学 位 論 文 題 名

Synthetic Studies on the BCD-Ring of Armatol F
(アルマトール F の B C D 環の合成研究)

アルマトール F は紅藻 *Chondria armata* から単離されたトリテルペンポリエーテルである。構造の特徴として単独の 7 員環エーテルと 6/7/7 員環の 3 環性縮環エーテル部を持つことがあげられるが、全体の相対配置や絶対配置が不明なままの海産天然物である。申請者は 7/7 シス縮環構造を特徴とする BCD 環部立体選択的構築を目指した研究を展開し、不斉転写型アイルランドークライゼン転位と閉環オレフィンメタセシスを用いて、BC 環骨格の構築に成功した。また、立体障害の大きな位置への臭素基の導入が大きな課題である D 環部の増築についても、リレー型閉環オレフィンメタセシスを用いるアプローチで解決できる可能性があることを示し、アルマトール F の全合成並びに立体構造決定への道を開いた。本論文の内容は、海産天然物全合成研究における大きな進展であると共に、有機合成化学分野の発展に寄与するものである。よって著者は、北海道大学博士（理学）の学位を授与される資格あるものと認める。